

# 平成30年度の具体的な学校経営目標・計画

平成31年2月 水島工業高等学校

学校経営目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価			
			達成状況	評価	達成状況	評価		
1 学習指導 (真の実力を身に付けさせる)	(1)授業を大切にさせ、基礎学力の定着を図る。	授業改善やICT機器の活用、公開授業への参加を通じて基礎学力の定着を図る。	公開授業に積極的に参加し、教育実践の共有化を図る。	公開授業週間を設定し、積極的に見学をするように促した。教員同士での自発的な実践発表会も開かれた。	b	教員同士での実践発表会や研修が行われた。ネットワーク分離によりデータ収集や作業が困難な中でもICT機器を用いての授業実践が行われている。	b	
		SPIや一般常識問題に取り組みさせ、基礎学力の向上を図る。	学習意欲に個人差がある。クラス・専門科・教科で連絡を取り合い、多面的に取り組む。	全体的には落ち着いて授業に取り組んでいるようである。基礎学力向上に向けては、進路指導課の継続的な取り組みはもとより、SPI模試や小テストを実施し意識の高揚を図るクラスも見られた。一方、就職選考の内容にSPI一般常識などが無い者も若干あり、取り組み状況に差があるクラスも見られる。	b	進路決定の時期までは概ね緊張感を持ちながら取り組んでいたが、進路決定後はクラスによって学習意欲が低下している生徒が見受けられるので、引き続き指導を続けたい。	b	
	(2)アクティブラーニング型授業への取組を推進し、体験的な学習の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	コミュニケーション能力や実習体験を取り入れ、地元企業から求められる実践的な技術者を育成する。	主体的対話的で深い学びとなる補習を実践する。専門的な指導者を積極的に活用し、本物を目指す指導体制を充実させる。	外部と連携した指導を充実させ、職業人として地域に貢献する人材育成に努めた。	b	4種目が外部と連携した資格取得であり過去最高となった。今後も地域と協働した体制づくりを目指す。	b	
		アクティブラーニング型授業への取組を推進し、体験的な学習の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	ICT機器を利用した研究発表や、課題の発表を行える授業展開を目指す。生徒は、人前で話す訓練をすることにより、コミュニケーション能力を身に付ける。グループ学習、学び合いでのICT利用の場を想定した、設備の充実も考えていく。	ICTを活用した授業を心がけ、実践しているが、さらに、アクティブラーニングの中にICTを活用する方法について、情報教育係の教員と研究している。予算があれば、情報教育関係の研究会にも、参加していきたい。	b	ICTの導入状況としては、県内公立高校の、平均的なところだと思ふ。受験生の確保のためにも、ICT先進校として、アピールできるものがないかと、情報教育係の教員と研究中である。	b	
	(3)家庭学習の習慣化を図る。	教科書の持ち帰りを徹底し、課題を期限内に提出させる。	教科書持ち帰り100%を目標とする。	課題提出に対して厳しい生徒もいる。指導を継続したい。	b	教科書の持ち帰りはできているが、課題提出ができない生徒が若干いる。	b	
		全学年の成績不振者への1・2学期末の指導を実施する。	平成29年度は不認定科目が全学年で19であった。今年度は学期末の指導等により不認定科目20以下を目指す。	平成29年度一学期末の赤字総数39個と比較すると、平成30年度は76個と大幅に増加した。平成28年度と同レベルである。引き続き指導していく。	c	平成29年度2学期末の赤字総数128個と比較して、平成30年度は108個と20個、15.6%減少した。1・2学期ともに成績不審者に対しての指導を行うことができた。	b	
2 生活指導 (思いやりの心を育てる)	(1)気持ちの良いあいさつを励まし、整理・整頓、清掃に努め、基本的な生活習慣を確立する。	日常的な指導の中で、工業人として必要な挨拶、礼儀、マナーの徹底を行う。	「明るく」「元氣よく」をモットーに掲げ、積極的に気持ちのよい挨拶、大きな声で返事をすることができるようになる。	教員側からの働きかけにより、挨拶、返事ができつつある。生徒側から積極的に挨拶ができるような指導の工夫が必要である。	b	教員側からの働きかけにより、挨拶、返事ができつつある。服装などにおいては、個人的に声かけを行う必要がある生徒がいた。	b	
		地域貢献活動を通じて規範意識と社会性を身に付ける。あいさつの習慣を定着させる。	地域貢献活動を通じて礼儀や5Sの意識付けができる。活動中ではあいさつや清掃を徹底する。	大きな声で挨拶し、地域の方と交流することで、生徒の自信につながっている。	b	挨拶の徹底など積極的に社会に貢献する規範意識と社会性を磨く機会になっている。	b	
		教員が率先して気持ちよい挨拶をする。授業の開始・終了時に大きな声で挨拶をする。	全クラスで共通理解の下、統一した指導を行う。	2学期になると挨拶の声が小さくなった。	b	挨拶はだいたいできているが、入学当初のような大きな声が出にくくなった。	b	
	(2)生徒・保護者との信頼関係を一層密にし、きめ細かな指導を行う。	保護者連絡を密にし、欠席・遅刻・早退をなくす。	無断欠席・遅刻ゼロを目指す。	無断欠席はない。遅刻者も一部に限られている。	b	無断欠席はない、遅刻者も一部に限られている。	b	
		学校生活アンケート等を集計・確認し、担任やカウンセラーと連携して生徒が抱えている問題の解決に向けて対応する。長欠調査と課会を定着し、担任と連携して不登校生徒と保護者の支援を行う。	アンケート後の対応が遅かったため、今年度は緊急度の高い事例は直後に、その他も1週間以内に対応を始める。毎月1回以上課会を開き、長欠調査と日常観察の情報を交換し、適切な支援を行う。	アンケート直後から担任と教育相談課で連携して対応できた。いじめ対策委員会も7月上旬に実施することができた。1学期は毎月1回課会を開き情報交換を行った。夏季休業中に豪雨災害後の心のケアについての研修会に参加し、教職員に伝達することができた。	b	6月と9月に学校生活アンケートを実施し、集計・確認後、担任やカウンセラーと連携して生徒が抱えている問題の解決に向けて対応することができた。長欠調査と課会を定着化し、担任と連携して不登校生徒と保護者の支援を行うことができた。	b	
		ケータイ安全教室を実施し、ソーシャルネットワーク上での言葉がどのように相手に伝わっているのか考えさせる。	言葉の取り扱い、個人情報の取り扱いが未熟と考える。	始業式や終業式などで全体にSNSの使用について話をしているが、まだまだ理解力が不足しており、トラブルの原因になっている。引き続き取り扱いについて指導していきたい。	c	始業式や終業式など、全体で話ができる場面で再三SNSの使用について話をしたが、実際の使用について理解不足で、トラブルの原因になっている。引き続き取り扱いについて指導が必要である。	b	
(3)人権教育を充実し、安心して過ごせる学校づくりを一層推進する。	ホームルームを利用し、生徒の様子を把握し、人間関係を築かせる。	生活アンケートにおけるいじめ等の人間関係のトラブルがない。	事件あった。	c	いじめとの境が難しい案件も有り、いじめにつながる恐れを十分感じている。	b		
	(4)特別支援教育の充実を図る。	特別支援教育や合理的配慮の必要な生徒・保護者と面談し、クラス担任や教科担任と情報を共有する。授業や学校生活の様々な場面で、共通理解の下で適切な支援・配慮を行う。	新入生招集日に面談を行い、年度当初に情報を共有している。7月に教員研修会を開き、発達障害に関する理解を深め、具体的な合理的配慮の在り方について学ぶ。	b	特別支援教育や合理的配慮の必要な生徒・保護者と面談し、クラス担任や教科担任と情報を共有することができた。授業や学校生活の様々な場面で教員の気づいたことをまとめ、教科担任会で情報を共有し、共通理解の下で適切な支援・配慮を行うよう努めた。	b		
3 進路指導 (目標を明確にさせる)	(1)インターンシップを推進し、キャリア教育の充実を図る。	インターンシップ受け入れ可能な会社の確保に努める。	企業にインターンシップについての理解を求め、幅広いインターンシップ先の確保を目指す。	夏季は24社、45名が参加できた。	b	合計27社、58名。参加生徒には本当に良い経験になるのでさらに推進したいところだが、係の負担軽減が課題。	b	
		(2)積極的に求人開拓を行い、生徒の自己実現を支援する。	新規求人開拓に加え、今まで培った企業との信頼関係を大切にす。	生徒全員が希望の就職地域に就職できるよう、特に希望の多い地元地域(倉敷、水島)の求人確保に努める。	人手不足を受けて、求人数は昨年度を上回った。	b	求人数は多く、生徒に有利な状態が続いている。一方、応募できない企業も多くており、その部分では申し訳ない。	b
		(3)進学指導体制の充実を図る。	補習の充実により、進学を目指した生徒の学力向上を図る。	教科の協力もあって、毎年実施できており補習も定着した。今年も継続して行いたい。	1学期1年18名、2年10名、3年8名が参加してしっかり学習に取り組んでいる。	a	おおむねうまくいっているが、業務が係に集中しているところは改善の余地がある。	b

4	魅力ある工業高校づくり (生き抜く力を育む)	(1)工業の各分野の学習において、「ものづくり」の意識を高める取組を重視する。	課題研究の時間を使い、個々の能力に応じたものづくり教育を進める。	指示されたことはできるが、生徒自らが計画・実行・評価・改善を実行する。	時間を有効利用して、問題解決に当たっている。ものづくり(ロボット大会・レーザー加工機組立)などは夏休みを利用して作業した。	b	ロボット大会・レーザー加工機組立などは生徒が主体的に取り組み成果を上げた。	a	
			ものづくりの活動を、ホームページで紹介し、本校の生徒のみではなく、保護者や中学生にもアピールしていき、生徒のモチベーションを上げていく。	MEDIAの記事も数年間使っており、そろそろ新しい取組を伝えていきたい。	ICT支援員の協力を得て、ホームページの充実を図っている。中学生へのアピールを高めるためにも、各科の協力が必要である。	b	NEW MEDIA 昨年から進んでいないような気がする。情報管理室としては、MEDIA、各科の実習、課題研究などの広報活動を行っていただきたい。	b	
		(2)ものづくりを通して、エネルギー環境教育をさらに発展させる。	学校の特色を生かした地域貢献活動を推進する。	エネルギー環境教育に係る地域貢献活動を優先的に取り入れて地域に貢献する。(昨年度8回実施)	計画通り優先的に実施中である。特色を生かしたものづくりにつなげたい。	計画通り優先的に実施中である。特色を生かしたものづくりにつなげたい。	b	震災により中止となった行事もあるが、今年度も積極的に地域の環境フェスティバルや環境学習等に参加した。	b
			BDF、燃料電池、新素材の技術を活用して環境教育を推進する。	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせる。	発表などを積極的に行ってくれた。	発表などを積極的に行ってくれた。	a	小学校との交流学習、環境イベントへの参加を通して日ごろの学習内容を発表し理解を深めることができた。	a
		(3)資格・検定の取得を一層推進する。	高度な資格取得にチャレンジし、本物を目指す姿勢を養う。職業人として地域に貢献する人材育成を強化する。	地域の要望に沿った新たな資格取得の募集を始める。ジュニアマイスター等の各種技術顕彰取得者を昨年度より増加させる。地域の進路先と連携した指導体制を確立する。(昨年度：工業教育技術顕彰63人、職業教育技術顕彰前期9人後期28人、ジュニアマイスター前期2人後期26人)	岡山県職業教育技術顕彰前期12人、ジュニアマイスター顕彰前期14人であった。	岡山県職業教育技術顕彰前期12人、ジュニアマイスター顕彰前期14人であった。	a	ジュニアマイスター特別表彰が複数名予定されるなど、資格取得の取組全般の成果につながった。	a
		(4)特別活動の活性化を進める。	文化祭や倉敷三斎市など校外におけるイベントを大切に、さらにコミュニケーション能力の育成を図る活動を行う。また、生徒たちにイベント運営をさせる中で主体性や発案力も育てていく。	様々なイベントに参加している。継続して顧問と連携したい。	文化祭や三斎市に向けた準備を行う中で、様々な人とコミュニケーションがとれるようになっている。また、例年以上にしっかりと準備を行い、文化委員などの代表生徒に自覚と主体性が芽生えている。今後は代表生徒のみならず、生徒1人1人が主体性を持って活動に参加するようにしていきたい。	文化祭や三斎市に向けた準備を行う中で、様々な人とコミュニケーションがとれるようになっている。また、例年以上にしっかりと準備を行い、文化委員などの代表生徒に自覚と主体性が芽生えている。今後は代表生徒のみならず、生徒1人1人が主体性を持って活動に参加するようにしていきたい。	b	この1年間の文化祭などの校外の方と関わる活動の中で、生徒全体のコミュニケーション能力は向上した。また、生徒達の中で積極的に特別活動を行いたいという気持ちも高まってきている。	a
			図書館通信による新刊情報の発信及びPOPづくり、スタンプラリー、ヒップオパールの一層の充実を図り、生徒の読書活動を推進する。	貸出冊数に対して、学期あたり、専門書や小説など40%以上の貸出を目指す。(マンガ以外)	1学期終業式時点で59.0%の貸し出しがあった。	1学期終業式時点で59.0%の貸し出しがあった。	a	2学期終業式時点で56.0%の貸し出しがあった。	a
		(5)「MEDIA」思想の再構築と実践。プロジェクトの始動。	次期メシアプロジェクトの方向性を探る。	新エネルギーと新素材の活用を見据えながら次のプロジェクトのアイデアを探る。	新しいアイデアを提案できていない。	新しいアイデアを提案中である。	c	新しいアイデアを提案中である。	b
			企業を訪問したり、各種大会に参加してアイデアを出す。	企業(大学)を訪問する。また、各種のイベントや大会に参加する。	新しく「プログラミングコンテストへの道」や「おかやまテクノロジー展」(参加予定)に参加した。	新しく「プログラミングコンテストへの道」や「おかやまテクノロジー展」(参加予定)に参加した。	b	情報収集が思ったようにできなかった。また、「プログラミングコンテストへの道」のエントリーの数が高かった。	b
		5	開かれた学校づくり (社会に貢献する)	(1)授業公開、授業評価等を活用し、授業改善を図る。	保護者対象の公開授業週間、教員対象の公開授業週間を実施する。また、授業評価アンケートを実施し、自らの授業を振り返る機会を設ける。	保護者向け公開授業及び公開授業週間を年2回設定し、教員同士の授業参観を促進する。合計15日間以上を設定する。	保護者対象の公開授業を公開実習も含めて1学期13日間実施した。授業評価アンケートは2学期に実施予定である。	b	保護者対象の公開授業を公開実習も含めて23日間実施した。授業評価アンケートは2学期に実施した。
(2)中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。	中学生保護者対象説明会を年2回開催する。また、学校案内の改訂やホームページの更新を行い、積極的な情報発信を行う。			平成30年度と同様に平成31年度入試で希望者380名(募集定員の1.2倍)、オープンスクールの参加者が2回合計1000名以上を目指す。	中学3年生516名、保護者126名、合計642名が夏のオープンスクールに参加した。昨年より若干減少しているが、多数の方に参加して貰っていることに変わりはない。引き続き学校のPRに努める。	b	秋のオープンスクールに中学生419名、保護者114名、合計533名が参加し、夏と合わせて1175名と多数の方に参加していただいた。平成31年度入試1次調査において本校志望者の数は331名と昨年度より随分減少したが、様子を見ていきたい。	b	
	中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。			ホームページを通じて各専門科の魅力・特徴を発信し、活性化を図る。	ICT支援員の協力を得て、ホームページの充実を図っている。中学生へのアピールを高めるためにも、各科の協力が必要だと思う。	ICT支援員の協力を得て、ホームページの充実を図っている。中学生へのアピールを高めるためにも、各科の協力が必要だと思う。	b	ICT支援員との協力関係が、現在のICT支援員との訪問方法・回数では、うまく活用できていない。各科、課、部活動の協力を得て、魅力のある広報活動を行っていただきたい。	b
(3)社会貢献活動に積極的に取り組み、地域との連携を一層密にする。	倉敷町家トラスト等と連携した活動を通して、魅力ある専門科づくりに取り組む。			町家の調査・修理等を行う。	町家調査に3日間延べ28名が参加した。	町家調査に3日間延べ28名が参加した。	b	町家調査に3日間延べ28名が参加した。また、整備活動も行った。	b
6	安全な教育環境づくり (危険予知能力を育成する)	(1)5S運動を推進し、安全教育の徹底を図る。	交通安全の日や場所・回数などを検討し、街頭指導を充実する。	自動車や、自転車同士など接触事故が起きている。昨年度より事故を減らしてきたい。	自転車の交通事故は6件報告されている。昨年より少ないが、啓発活動を継続する。	b	自転車の交通事故は16件報告あり、多くは車との接触。昨年より6件減少しや改善。	b	
			安全点検を毎月実施し、修理・改修が必要な箇所を明確にし、破損箇所ゼロを目指す。拾得物の減少と返却率の向上を目指す。	安全点検を、5月から毎月10日に実施し、修理・改修が必要な箇所を把握する。拾得物50件以下と、返却率60%以上とする。	修理・改修(4箇所)は修繕要求票によって対応できた。拾得物は27件あり、返却率は30%である。	b	毎月10日安全点検ができた。また修繕要求票による処置も迅速に対応でき、破損箇所は補修されている。拾得物件は46件、返却率は33%である。	b	
		(2)危機管理・防災教育を徹底する。	防災訓練や防災LHRを通して、防災に関する知識を深め、危険予測に基づいた判断力や行動力を養う。	防災訓練を年2回実施、抜き打ち地震訓練、防災LHRを実施し、防災意識の向上を目指す。	防災訓練、抜き打ち訓練を実施した。また反省事項をまとめて生徒に配布した。	防災訓練、抜き打ち訓練を実施した。また反省事項をまとめて生徒に配布した。	b	防災訓練では水消火器による消火練習、防災LHRでは外部講師による講演会、を実施しアンケート集計や感想から防災意識を高めることができた。	b
			アレルギーのある生徒への対応についての講習会を実施する。	アレルギーのある生徒への緊急時対応についての講習会を年1回実施する。	5月に実施、45名が参加した。	5月に実施、45名が参加した。	b	5月、10月に実施し、約60名が参加した。	a